## 第 34 回岡山吉備高原車いすふれあいロードレース 3 年ぶりに開催

**～パナソニック吉備が事務局を務め、従業員ボランティアが大会運営をサポート～**

パナソニックグループが支援する『第 34 回　岡山吉備高原車いすふれあいロードレース』が岡山県の中央部に位置する吉備高原都市で、10 月 9 日に開催されました。

車いすランナーと一般ランナーが同じコースを走るこのレースは 1988 年に始まり、国内でも草分け的な存在。障害のある人もない人も、同じフィールドで共に参加し、競いふれあうロードレースを通じ、お互いの理解や交流を深めるとともに、競技力向上と、健康や体力づくりを目的としています。

パナソニックグループも本大会の趣旨に賛同し、1998 年より大会運営に深く関わってきました。パナソニック吉備（株）が主体となって大会事務局を担うとともに、当社グループの従業員がボランティアや選手として参画するなど、岡山県、吉備中央町並びに吉備高原都市内の各事業所と協力し大会を運営しています。この官民一体での運営方法は全国的にも珍しく地域全体を盛り上げています。

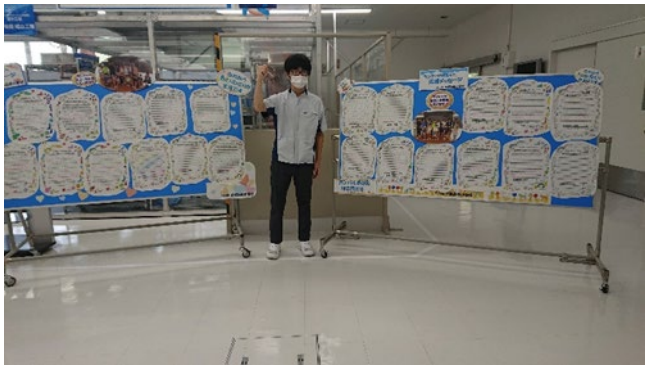
2020 年からは新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、大会の中止が続いてきましたが、今年は感染症対策を徹底し、規模も縮小することで 3 年ぶりの開催がかないました。

大会には、車いす、一般の部の 3Km、10Km、ハーフマラソンの各種目に、車いすランナー38 人、一般ランナー733 人、合計 771 人が出場しました。また、パナソニックグループからは特別招待選手として、パナソニック女子陸上競技部の吉川美香コーチ（ロンドン五輪日本代表）が参加するほか、選手として 8 人、ボランティアとして５５人が参加しました。当日は、大会の発展に尽力された故三笠宮寛仁親王殿下のご長女・彬子様もご臨席され、レースを観戦されました

## ■当社グループ 従業員によるボランティア活動の様子

輸送係
ボランティアを配置場所まで送迎

無線係
主要大会係員に無線を配布し、中継拠点として無線連絡網を管理



地元小学生の応援メッセージをボード化して当日全体披露

ゴール給水係
フィニッシュしたランナーに、タオル、飲料、食事、マスクを提供。
他の企業ボランティア団体と協働して実施

選手受付係
参加ランナーの体調管理チェックシートを確認し、次の受付につなぐボランティア。限られた受付時間内( 1 時間半)に 1 人で約 100 人分を担当。

## ■ボランティア活動に参加した従業員の声

### 選手受付係を担当した荒井さん（当社・看護師）
### 参加ランナーの体調管理チェックシート確認後の再問診などを実施

今回、コロナ対策の新しい内容として、『体調管理チェックシート』があり、心配していましたが、スムーズに対応できました。たくさんのランナーの方から『毎年参加しているが久しぶりだ。開催してくれて嬉しい。』などうれしい声がけがありました。この大会はリピーターの方が多く、毎年楽しみにしていることがよくわかり、温かい雰囲気を感じました。日頃、お電話で対応している近隣地域の方たちと一緒に大会運営する機会であり、楽しく参加しました。

### 報道受付係を担当した難波さん
### 取材を希望する報道各社の対応や、大会後の記録の送信を担当

今回新しく追加した業務としてコロナ対策のための『体調管理チェックシート』がありました。報道受付の目の前で行われており、混雑するのではないかと心配していましたが、手際よくスムーズに進んで驚きました。
また、３年ぶりの開催のため、いろんなことを心配していました。特に報道受付係としては、大会後の記録を各報道機関に早く、正しく伝える業務があります。若いITが得意なメンバーの力を借りて速やかにできたことがうれしかったです。

この大会が、障がい者スポーツの理解を深めるきっかけとなること、また一人ひとりが互いの個性を受け入れ、認め合うDEI（Diversity, Equity & Inclusion）の実現につながることを願っています。パナソニックグループでは今後もこの大会の支援を行ってまいります。